

小梅日記弘化五年の条(一)

藤田貞一郎

- 一 はじめに
- 二 史料

一 はじめに

『同志社商学』第二十六卷第二号に掲載したものに引続き、今回は弘化五年五月朔日から八月晦日までの四カ月間の日記を印刷に付する。

この四カ月の記事もまた、いずれも興味あるものであるが、五月八日・九日・十一日・十五日・十七日・廿一日・廿六日・廿九日、六月三日・六日、八月十四日の条に、策問の受験勉強風景とその結果が述べられ

ているのが注目される。五月廿八日、六月十日、七月五日、八月五日・十六日の条にみられる加増あるいは跡目相続などについての記事は、すでに紹介した部分にも散見されたが、身分上・経済上の出世に関心がか寄せられるものであったかがよく読みとれて面白い。川合家が一二五石に加増になった七月五日の記事は、大喜びのさまをよく伝えている。

今回の部分の解説に当たっては、神戸女学院大学三木俊秋教授のご教示を受けた部分がある。記して謝意を表す。もとよりあり得べき誤読は藤田の責任である。(一九七四年七月十四日)

二 史 料

○五月朔日。山本彦十郎殿孫初幟ゆへ今日よばれる。

今朝、野上河野左近初而来る。右ハ此度十一日ニ書画会相催候間展観御出シ可被成下且当日ハ小梅をも同道ニ而来てくれよとの事、此人ノ妾も四君子書候間御つれも御座候間出席致候様との事、直

ニ帰る。宮本ノ弟子上野酒券五持参。是ハ先頃詩直シ遣候礼也○遠藤小四郎ヲ肴一尾・木瓜沓本送らる。

○二日。天気よし。楠右衛門ノ妻さよの着持参。是ハ先比武者絵書遣候礼也。畳紙一ツ遣ス。右ヲ小出へ送る。是も初幟也。松下氏来らる。かしは餅持参。

●三日。今日殿様御高野紀三井寺辺也。御帰りハ三ツまたより御舟ニ召れ、御供ハ川辺からニ而御附添也。女中も御供のよし。是ハいか成事かふ知。都而女中大勢有よし。いつ方へもいつれのよし也。

僧并在中御目見へノ筋御礼ノ筈のび候也。かたひら實物ニ置候所、庄兵へふ埒ニ而外へ置かへ候ニ付、大ニセわ也。権七ニ而間ニ合ぬゆへ庄兵へヲよひニ行、又お金も兩度来る。権七も同所へ兩度行。大ニ心配。しかし、五匆程ノそんなニ而先相濟。

●四日。今日ハ在方いしや其外御目ミへ已上僧杯御礼。雨天ゆへ皆こまる。

●五日。しめくとして節句ノやうニもなし。野呂清吉おそく来る。池田ヲすしと酒少々送らる。宿ニも少々すしつけ有候間、直ニ野呂へ遣ス。小梅ハ平これもちノ画へ紛色、老枚ハ村井多右衛門ノ孫へ送り、又安兵へ来るゆへ酒のます内、老枚紛色て松下へもたセやる。主人村井へ行留主中、清吉書画書夕方帰る。

○六日。天気よし。今日ヲけん龍院様御法事。夫ゆへ七ツ比ヲハ三味杯も引ぬゆへさひしく、火ノ元ダれ。

○七日

○八日。今日ハ皆々さく問ニ出る筋来り、文章書けいこ。酒飯ヲ出し終日もてなし。其人々ハ岩橋藤助

え田中善之助(ヤ)て、くり山・富永・佐津川・塚山・

野呂等也。皆々帰りて後、山本省太郎ト法福寺来

る。肴五尾持参。夜さけ仕廻候ニ付岩一郎ト万二

郎行。

○九日。昼後北野左右衛門さそひニ来る。今日法福寺

へ会する也。此人さく問御試ニ出度候へ共出家ノ

事(ハ脱カ)ゆいかかとして先願ヲ出候也。相濟候ハ、しはら

くとどまり、相濟ズ候ハ、十一日ニ京都出立ゆへ

皆々ヲよび候也。野呂ヲも此方々さそひ同道ス。

四ツ過帰る。

○十日。今日学校当番也。昼後三星ノ図ヲ小梅書。出

来あしし。此間中二三枚同図書たれとも一向あし

し。河野るノ使来る。明日いよ／＼会相催候間来

てくれよとの事。書画も此者へ渡しくれよとの

事。

●十一日。五ツ過る富永来る。くり山・札川くる。今

日も文章書也。扱、今日寿松音へ書画もたせ遣

ス。権七。両方共今朝書候也。菊ト岩井金紙へ

書。八ツ過主人行。三匁送る。七ツ比帰る。雨天

ゆへ人少シ。三人ヲ酒少し色々持参。皆々よはれ

る。四ツ比皆帰る。住吉ふしん出来ニ而十日夜御

宮移し有。今日ハ餅なげ有、大ニにぎやかにする

つもりニ而あんどろ杯大そうニこしらへ候へ共さ

しとられけるよし也。さもなくとも雨天ニ而何事

もあしし。楠右衛門方ハ鳥井ノ前ゆへ餅まきもミ

へ候間来てくれよとの事。断ニ遣ス。万吉来る。

此間中いんで来りよし也。

●十三日。田中九右衛門母大病五日ニ引いれてより後

身自由ならず中風ともいしや申よし。大ニ難義ノ

様子也。九右衛門妻女先月末熊野へとう治ニ

行、善助も同しく留主中ゆへ、老母何か世話して

帯扱ける事も申付扱したるよし也。今日見廻送

る。扇ノ重へつめる。魚万へ申付る。すし二重・

取口一重・焼鯛式一重へ入る。七ツ比権七持行。

主人も其前々行、重つめ○城ノ口を茶ノ子おやち月むそうのよし○河野左近を來る。たはこ一箱、名朝がら。杳々五分。此夜河野左近妻つれて

來る。塚山案内する。すし取口取寄出ス。主人跡から歸り來る。色まんぢう田中ニ而貰ひ歸り夫ヲも出ス。紙出して合作。妻ノ名愛柳。竹斗書。左

近ハ木川とて山水斗書。小梅百合書。菊も書。母君夫江哥書ていづれも一枚ツツ持歸る。梅本のかまひニ而酒取。夜九ツまへ迄。

○十四日。夕方小梅岩一郎と権七ヲつれて田中へ見廻ニ行。少しよき方也。熊野へハ十助と云者ヲむかへニやれし由。今日等ハ歸るかと待居る様子也○庭ノ桜橙ひわ杯土産ニ持參ス。酒すし杯出さる。権七ヲ先へかへす。九ツ前歸る比ハ天気もよく、傘ハしやまな程也。鈴木おきさかしわ餅十余持參ス。江戸系三枚程遣ス。

○十五日。岩橋を酒二升トゑび數十送りこす。山本省

太郎も一しやう携へ法福寺羽二重餅五十斗持參

ス。塚山父子も來る。親ノ又太郎小菊紙百枚斗と花手しほ五枚程持參ス。直ニ歸る。其余人ハ皆さくもんノけいことて終日文かく。跡ニ而酒呑。入用八匁斗。彦十郎殿も御出。酒出ス。先へ歸る。○十六日。快晴ス。田中へ主人見廻ニ行。先同様。くり山來、直ニ歸る。

○十七日。快晴。昼後榎阪來る。酒出ス。すし取寄。かけひも來り同座○城ノ口法事送り膳來る。榎本へ野呂ヲも同道ス。文章會。

○十八日。天気よし。深つ弥一郎へ扇二本渡ス。先日より画書くれよとの事。菊書○ふとんノわたほつす。夕方梅七升内田へ送る。池田ノ児はとくれよと言。此方にハにがす心ゆへやらず。池田ニハやめてくれと言ゆへ也。梅壺斗宿ノ食料ニつけ置。雷鳴。

○十九日。おき上り小法師ノ顔ヲ頼れて書、保五郎へ渡ス。昨日、長坂ノ隠居來り、懸物かなつけして

くれよとの事。扇うちハ苞本持参ス○ふとんノわたほつし○少し雨降。今日ハいはら町辺行。鷹野加納ノ下屋敷へ御立寄。廿日ニ文会ノ約束なれ共廿一日ニするゆへ、其事ヲも申かてら主人方々江行。岩橋・山本彦十郎殿へ行、酒吞帰る○ふとんノわたつはなかし○是ハ小梅也。

○廿日。ふとんくける。黒田ヲ淨るり本かしニ来る。女子也。

○廿一日。米五升取。其外入用多し。今日も文会ニ而七八人来る。岩橋藤助殿金式朱持参。是ハ大田妙大寺ヲ先日書遣ハセし郡ノ画ノ礼ノよし也○いつも酒肴たづさへけれ共此方々も出ス。田宮隠居来る。勝手へ通し酒一ツ出ス。夕方ハかつを造り杯酒盛。

●廿二日。省太郎殿来る。直ニ帰る。市川斎もくる。

是ハ昼前也○岩橋へ梅壺斗二升送る○同壺升斗権七へ遣ス○小梅佐野陰山一代記昼からうつす。紙数二十枚也。夜仁井田ヲ召状致来ノ知らセくる。

○廿三日。主人方々江行。仁井田結構。しかし病氣ゆへ客ハのぼし。其事ヲ岩橋鉄之助申来る○夕方ヲ母君小梅・権七ヲつれて屏(ま)れて三宅氏へ行。田宮ノ隠居もとまりる也。久しぶりニ而咄ス。酒出さる。岩一郎留主居。三夜待おこたる。

○廿四日。市川来る。岩橋も来る処へ善之助も来る。野呂ニ今日ハ皆々集るゆへ、先程ヲ待居るとの事ゆへ皆々行。こち壺本・車急ひ四ツ斗よこす。此方ニ会有かとの事なるへし。主人ハ仁井田へ悦ニ行。昼後、小梅万二郎と直川参り、七ツ比帰る。池田ヲ取次、ならやニ而麻七尺求。

○廿五日。快晴。安兵へ来て、水こし持へる。

○廿六日。さよのニ頼ミ布をらせし賃、四匁五分渡ス。さくもんノけいこニ而又々人々来る。岩橋・塚山・栗山・富永・札川・市川・野呂・榎本・田中・山本・法福寺十一人也。酒二升榎本法福を持参。かつを造り岩橋。さハくり山つか。肴二浅之助。めんつ一・マンチウ十三善之助持参。是ハ熊野行ノ土産也。いつれも夕方ヲ酒盛也。唐紙七枚・墨

三挾、坂屋ニ而取。

○廿七日。快晴ス。学校当番也。七ツ比ばら〜降。

主人帰る。昨日田中老母本家へ帰りしよし。だん
〜よし。見送ニ行、岩橋へ寄、酒呑。くにやす
御祭礼。

●廿八日。雨天。邦安社祭礼。朝六ツ比る湊御殿へ出

□□□□^(ム)
□□□□^(シ)

大納言様ニハ猿ノまふのハ御珍らしく
思召ゆへ御覧。先日ハ役人申ニハことしハしつそ
ニ致候様ニと申付候へとも又思召ニて御覧ゆへ随
分ていねいニ成候様ニと申候へとふ都合ニて役人
共ふ都合ニ而有之けるよし也。加納殿御年寄ニ被
成、木村才兵へも十石御加増中奥。

○廿九日。快晴。朝、市川ノ願事ニ付、山本・岩橋へ

行。又、夕方る岩橋へ行、さく問けいこ有之よし
也。万吉夕方迄本よむ。廻状来り策問三日との
事。昨日る岩一郎内気。□□^(ムシ)二郎ヲ頼ミ薬三ふく

取。今日ハ小出白鱗ノ庭前へ能舞台出来て始めて能
御座候間見ニ御出との事。雨天ニ而にしきの袴杯

ぬれ新しき物きハづきしよし也。主人一寸見ニ

行。主人ニハ不逢。先比るげいしや大ニしかられ
やしき方へ行事ヲ禁せらる。いつれも在辺へ行、
在方ノ風儀あしく成しよし也。安ニ而方々江すす
めに行との事。しかし、此度くにやすの御祭礼ニ
又ゆるみ同しゆへ、又本ノことく成へしと人々
言。役人ハ先ニハ随分しつそニ本ノかた斗いたセ
と申置候へ共上る御覧ゆへねん入候様ニとの事ゆ
へ先のとそごして大ニめいわくのよし也。策問三
日との事。

○晦日。池田へ唐紙五枚かへす。山桃少し送る。くも
る。野呂昼前来。くり山と兩人江めし出ス。長坂
る山桃少し、かんきく醬油取ニやる。

○六月分朔日。池田る薬ミセにくる。花咲しとて酒出
ス。黒田お鹿来る。山もも遣ス。志賀る祝ひ赤め
し一重送らる。岩一郎暑見廻ニ行。

●二日。少く風在。権七日高や江傘取ニやる。五匁五
分。市川ノ事ニ付、山本・岩橋、湊御殿へ行。夜

四ツ過ニ帰る。

○三日。策問御試ゆへ早朝が出る。いづれも少々おこたり夕方ニ成、大ニこんきう十一人程出来ず。落だいニも可成敷と大ニ心配。色々取扱ニて先草かうハ出来て有之候へ共清書出来すと申候へハ明日清書致スやうニとの事。先落だいニハならず。岩橋藤助願書ノあらましハ皆出来て有之候へ共本ヲ見合おそなりし事ゆへつミハ私忝人ニ有之也。外ノ者へハ御かまひふ可被下との事也。惣人数ハ廿八人也。残りし分ハ岩橋・山本・法福・札川・野呂・田中、其外ハふ知。札川帰りかけニ此方へ寄、待ゐる。五ツ比主人帰りくる。扱々思ひノ外おもたちし人がおそくなりし也。市川ハ書仕廻よし。富永も出来る。小重へたこくずしさまつつめて弁当ノ菜ニ魚ス。二日ニハ雷鳴と松枝ノ大筒ノ音とかみ合ニきこゆ。(これは欄外に記載す……注)主人評定所当番也。

●四日。雨雷鳴也。栄谷才二郎餅持参ス。今日も小出ニ狂言有之よし。雨ゆへふ行。七ツ比市川来り、

只今小出へいて参りしかいづれもぬれて狂言してゐるとの事。赤城惣太郎今晚送葬也。雨はけしきゆへ見立ニふ行。あかりさへもふ出。権七足いたミしゆへ也。

○五日。

●風雨雷鳴。昼前岩橋来たる。策問ノ事ニ付願書出候よしニ而見せらる。酒出ス。肴なし。木うり・なす杯ニ而あしらふ。其内田中善之助も来る。一所ニ帰る。跡が魚久よりいさぎ二持参ス○丹生院礼ニ来、菓子一箱くれる。三笠山と言名也○森やおかやも梅本ニ来りゐて大雷ゆへ此方へ皆々集まる。今晚ハ白井送葬主人行。夜野呂来る。酒一寸出ス。夜野呂来、酒出ス。直ニかへる。

○七日。今日ハ学校ニ而例事ニ付六ツより起て出る。

留主中七ツ比成瀬幾之丞久しふりニ而来る。用事ハ勢岳山田地士山崎権太夫と云人六十余也。此人養子ヲたつね候へ共思は敷者なきゆへもしや御弟子中ニ有之候ハ、御世話被下候様、私親類ニ候間

無抛頼まれ候との事。安兵へと熊はたらきニ来、人々ノうわさに坂井ノ亀池ついへたるよし言。又さいか崎辺ノ山もくつれたるとの事。家七八軒つふれ込候よし言。未だ実かいなヤふ知○弁当取ノふ調法ニ而下駄まちがひ○水巻丈八尺出つつミ切る。昨日ノ雷、片原松嶋ヤ清八ノ門へ落、はしらすしさせて有と言。しかしこけてもなし。また外へも落、ゑた村とやらん也。主人四ツまへかへる。和哥法ふく寺此間中浅之助方ニとまりゐるよし。此度相勤候ニ付、とく学志賀・川合ヲよふ。山本へ向行、先へかへるよし也。

○八日。快晴。幾之丞申来候事ニ付主人百武ノ次男ヲ思ヒ付、聞合セの為、小出へ行。留主。又田中へ見廻ニ行、菓子持参る。又大雨しやぢくを流ス。
(A) 酒本や大二郎方ニ而かさかる。

●九日。大雨。七ツ比岩橋召状ノよし知らセ手幣来。志賀も手幣。是ハかねて其用意なれともさたなし。はいたむゆへ当番代りてくれよと申されけれ

共夫ニハふ及との事也。本くれよとの事。しつちろくとやらん也。留主故返事セす。小肴志賀もよこす○梅本も赤まま少くくれる。是ハ信江方宅かへノいはひヲ梅本へよこせしすそわけ也。夕方安兵衛大工伊兵衛ヲつれて来る。直ニ帰る。

○十日。岩橋藤助三人扶持ヲ五人扶持ニ被成下儒者同様勤、礼ニ来る。同苗桶松名代ノ人も礼ニ来ル。今晚来てくれよとの事。しかし、ふりやうニ而誠ニ何もなし。ゑびノ吸物也、干あゆ甘くしニ而甘奴ノやらん言。奥へノゑんりよにて客とてハセず行かかり斗也。親類のミ也。野呂清吉さそひニ来て、岩一郎と三人行。夜九ツ比帰る。今日山田弥作百石御加増して奥御用人ニ成誠ニ結構ノ由也。成瀬幾之丞来る○母君金ひらへ参る。一尺斗の鯛式枚ニ而一両、かつを壺本廿奴ノよし也。

○十一日。天気。しかし、七前時雨。主人気色あしくねる。山本彦十郎との来る。直ニ帰らる。近日結構ニ成との事。心用意セよとの事。昨日夕方日知

録志賀へ返ス。

●十二日。昼比が又降出ス。主人岩はしへ礼ニ行。酒券三持参。白井へ香奠持参。酒券二持参ス。夜山本省太郎殿送りくれる。志賀の本かへしニコさる。風呂敷も同様。万吉来る。めし出ス。加茂大ニあれたるよし言。此間七日ニ帰りし時、かうしん堂うち原辺大水ニ而腰切ノ処も有。四方皆水なれとも勝手覚へしゆへ、足ニ而すなづか〳〵道ヲあゆみ候へ共のし、知らぬ者ハ中々步行出来かたきよし也。加茂辺山くづれ廿人斗ミへすニ成候よし也。

●十三日。時雨。夜浅之助と浅橋来る。同人大手マンヂウ十斗持参ス。酒出ス。権七ニ酒かひニやる。昼十五匆程いセやニ而とのへる。

○十四日。喜多村伴右衛門来り、私妻ヲむかへ候。親ハ竹谷安右衛門と申者西浜勤番ニ而八石頂戴仕候者ニ而候。まつ願ひも出さず客分として参候つもりとの事咄しニくる。

○十五日。大ニ快晴ス。祭礼なれ共客ハひき〳〵也。

蔵主来る。まだ何も出来ぬ内ゆへ有合ニ而鳥渡酒出ス。黒田ニ而よハれて来しとて一向吞ず。長咄しする。其内豹蔵湊御殿江偏章持参ス。昼後蔵主帰る。何事もなし。夜主人と者うふすなへ参詣ス。

○十六日。天気よし。三伯来る。今日有本ニ舟行。先生も申くれよとの事。御出被成候様ニと言。しかし仁井田茂一郎病死のよし知らセ昨日来るゆへふ行、断。

○十七日。快晴。湊御殿かうしやく早朝出ル。岩橋と浅之助と来る。酒出ス。魚久ガ種々持参ス。酒ハくけノ丁ヲ持参ス。大ニ馳走。皆よばれる。是ハ岩橋ノ持参成。七ツ過比帰る。夜、三伯来ル。酒も着も有合ニ而出ス。魚久ニ而一鉢取。すま琴ひく。九ツ比帰る。明早朝ニハ仁井田江行ゆへ主人先へねる。少しく雨降。

○十八日。早朝起出て仁井田送葬見立ニ行。少しおそ

なわりけれ共くわんニ逢、小嶋渡し場迄見送るよし。はかハ加太也。深津弥一郎美人画かへしニ来る。昨日かしたる也。

(以下、六月晦日までの記載部分は見当たらない。散逸したものと考え……注)

七月朔日。風有快晴ス。志賀^(イタミ)□□□赤いい一重送

らる。暑中見廻ニ主人行。さきの森へも参詣。日高ヤ来色々取。

○二日。学校当番也。極暑也。岩一郎水場へ行。かたひら伊勢や江やりし処又庄兵へ外へ置かへ候よし、権七ヲやる。

○三日。彦十郎殿庭迄来る。万吉も来る。此間中病氣ニ而有之候由。二百文古なべ払。六匁梅本ニ而かり榮求。

○四日。ハツ半過召状致来ス。皆昼休ミしてゐる処ニ而俄ニおきる。忠左衛門水もらひニ来て是ヲ見て直ニ手つたひニ来る。権七ヲ岩橋・田中へ知らセニ遣ス。万二郎ハ喜多村と鈴木・松下へ行。先芳

右衛門来り、忠左衛門と兩人知らセ手紙書ゐる処へ善之助来て同しく手紙書。富之助来り又岩橋共来り市川・浅之助も来る。斎も手紙書。今晚ハ花火有之ゆへ善之助へいそき帰る。家内行ゆへ留主居とやらん也。二かいへ上り候処花火よくミゆる。徳左衛門ヲよひニやる。直ニ来て手紙くばり。安兵へも同様。魚久ニ而すし取口。取酒ハ松屋ニ而取。九ツ比安兵へかへり支度さす。徳左衛門ハ四ツ前帰る。皆ともくニ二かひる花火ミる。魚久ニ而すし取ル。酒ハ大工町松屋吉兵へ持参ス。徳左衛門四ツまへ帰る。

○五日。六ツ起て登城。供ハ徳左衛門也。扱下りおそくハツ比岩橋迄聞ニやる。善之助手紙書。其前ニやうやう岩橋へきたるよし也。出精相動候ニ付廿五石ニ被下成、御銀其儘奥つめとの難有事也。志賀も結構四十石高御留主居物頭。昼過礼ニ来らる。其時まだやうす知らず也。浅之助少く中暑六尺坊主等てつたふ。魚久へ料理あつらへる。五十

一人前、三匁膳。すし前肴斗。酒ハ式斗、松屋ニ而取。外も五升程もらふ。肴斗残る。しやく人ハ五人有。上ハ廿六人、下十人余。下ハ二匁五分膳也。万吉も来りてつたふ。富之助と忠左衛門かんかたすしも少しつける。富之助・斎と三伯万てつたふ。下ハ小梅・安兵へ・熊・権七等也。(以下は欄外に記載……注) 浅之助しらせに来るのかおそく大ニあんじる。石井が聞候。おして出かけしとの事也。

○六日。平七との悦ニ来る。二かいニ而酒出ス。其前万吉も来て二階ニ而休む。主人七ツ前かへる。権七ヲいセやへやり白衣受さす。

七日。今日も登城。権七つれて行。浅之助も藤助殿も来る。かだの男ニ看もたせて来る。一所ニ酒のます○おかや又ハけい次ノばも来る。酒飯たべさす。夕方藤助とのも池田甚左衛門も川原辺へ行とて出かけ。住よし町きしへ寄大酔。昼市川来る。酒出ス。又其所へ富之助肴持参。鳥渡酒吞。しや

く人江五匁遣ス。市川筋ニ而右同人筋ハ六匁ツツ又二匁ツツ増てやる。(以下は欄外に記載……注) 金六匁、白砂糖市川。

○六日ハ御城ニ而長坂角弥の前ニ而せいし認メ血判する。帰りニ田中へ寄、昼めしによばれる。権七先へ帰る○住よしノ祭礼先日より御ちやうじニ而のひて有しヲ今日ニする。ちやうちん張かへにきかふやうす也。皆揃ひノゆかたこしらへ抔したるが夫ハ御とめニ成しよし也。

○八日。大暑。石湖来る。直ニ帰る。酒券三悦ニとて持参ス。七ツ過笹や来り酒出ス。主人ハ学校へ行、るす。酒一升と看三、海老二、なし三ツ権七ニもたせて学校江やる。かしの木杯ノ枝払ふ。安兵衛・熊来る○素とく御試ニ罷出候子供等へ今日ハ御ほうび頂戴す。礼ニ来る。魚久ニ而すし一鉢取ささや江遣ス。

○九日。中谷来る。酒券三悦ニとて持参ス。美濃へ状出ス。民と言女五日々やとふて有、是ニもたせ遣

ス。阿はちの者ゆへひきやく屋ヲ知らぬゆへ、万吉来合しゆへおしへてもらふ。つれ行。省太郎殿来る。酒出ス内夏目三郎大夫も来る。同酒。志賀ノ男子病死ノよし。あきりノ性ノよしヲ省太郎殿ニ聞。今焼也。大ニこんざつのよし也。悦ニきて皆々おどろく。台所ニハ肴置ならべて有よし。誠ニ急病のよし也○昼前、雲林来ておや益々あはれと言ゆへ出て逢。直ニ帰る。誠ニ極暑たへかたし。主人ハ米与へいてるす。安兵へと熊来り井戸がへ。雲林来ル。

○十日。岩橋藤助との来らる。有合ニ而酒出しぬる内裏へかつを売。直にかひて自身りやうり。代は四匁ノよし也。藤四郎ヲよびて一所ニ吞かけし処へとく学来り日常ノ処也。又つか山学蔵も来りさか盛也。山本の家来ニまます。八ッ比帰らる。藤助とのハ当番ゆへ昼めしたへて直ニ帰らる。夕方、志賀ノ小児死送葬ヲ見立ノ為権七ヲ遣ス。夜ニ入しやうじんあげまたへる処へ権七帰ししゆ

へ酒のます。岩二郎酒券持行て柳影とかへてくる。天気もよく成月出る。昼ハ少し雨降。

○十一日。四ッ頃村井定二郎来る。酒出ス。其時北村ノ児二人つれにて来る。主人留主。鈴木ノ隠居悦ニ来る。酒券ニ。津田亀二郎のりも持参ス。すし取寄、酒出ス。お重をもよんでくる。夕方帰り風呂へ入んとせし処へ、又白井忠二郎悦ニ来る。二鉢取ニやる。此人きちうゆへしやうじん物取寄る○坂井省安方ヲ使来り酒出ス。此方ヲ金一步二朱ことつける。小豆一袋中元ノ祝義とて送らる。

○十二日。少々風有。主人るすへ覚円寺礼ニ来る。昨日、野呂清吉郎京ヲ帰る。猪口盃一ツミやげ、直ニ帰る。せんたくしかけながら出。先日ノ小督の懸物と月見のかけ物と持参。小かうハ京ノ人、本居大平ノさんハ月見、有功卿ノさん也。右ノ図をうつくれよとの事。

○十三日

○十四日

○十五日

○十六日

○十七日

○十八日

○十九日

○廿日。朝九右衛門来る。一寸酒出ス。直ニ帰る。其

節塚山も来る。扇三本くれる。ひじき売来る。百

目求。代三十五文。主人灸すへる。暑中ミ廻ニ田

宮・山本・田中・内田杯へ行。

○廿一日。快晴ス。栗山来る。申立ノ事ニ付又市川へ

願書ノ事書てもらふ。大鯛巻くり山持参ス。夫江

蛤少々たして志賀出産ノ悦ニ送る。今日ハ殿様宇

治川辺御せつ野のよし也。岩一郎竹森へ行。主人

も山本・岩橋・市川杯へ行。

○廿二日。山本ノ会ゆへ行こしらへせし処へ浅之助来

る。今日和哥法福寺ふけ舟ニ乗て京へ行ニ付送り

しゆへ会ハやめニ致すとの事。いとま乞ニくるよ

し被申候か、いまたふ参哉と言。評定所当番也。

○廿三日。廻状来ル。田やす一位様御逝去ニ付、大納

言様実方御おちニ被為在候付、半げん御忌服被為

受候へ共日数立候事ニ付今日一日御遠慮との事。

今日御殺生有。昼後佐氏写さんと富永来る。一人

ニ而候ゆへ酒出かけし処又省太郎とのも来り同じ

く書。夕方迄写ス。そうめん出ス。のしも出ス。

荻野源三郎へ妻女病死、今晚さう礼也。ちやうち

ん出ス。権七行。白井茶の子来る。

○廿五日。昼前鈴木芳右衛門来ル。酒出ス内、藤助

来。同酒呑。八ッ比帰らる。鈴木ニ而かよひける

けんひし取。老奴九分ノ由。老割引。

○廿六日。快晴。昼後梅本平七来る。二階ニ而休ム

内、善之助来り一所ニ酒出ス。酒つきしゆへ万二

郎ヲ頼ミ求。代老奴。魚久ニ而二鉢取。

○廿七日。早朝起、岩一郎ハ千太郎と直川へ参詣ス。

少し雨降。遠く雷鳴あんしるる内昼前帰る。主人

暑中見廻、岩橋へ行。同家娘桂事いはた帯の祝義

ゆへ申上度存候也と言一盃呑内、彦十郎殿も

来り、省太郎・志賀・伊藤皆はからす寄合、盛ニ成りし由也。

○廿八日。浅之助七ツ頃来。主人富永ニ而よハれこゑハ帰り休るる内也。浅之助来りしかハ夫々ゆあひて又山本先生・伊藤も行。右ノ用ハ此度はんじノ甲乙付る事の相談也。志賀江ハ内々也。

(以下少し重複するが、別の紙片に次の記載あり……注) ねてゐるゆへ浅之助もしハらくして帰る。夫々ゆあひ又山本先生へ行。伊藤も同様。志賀へハ内々との事。右ハはんじノ甲乙付る事ノ相だんノよし也。野際を頼れたる小紺二枚へ書画書様ニ申来る。井口喜八ノ頼のよし也。

○廿九日。金巻歩梅本を先達而ノかへさる。

是ハ付落し等也。(ここから紙片かわる……注)

○八日。富永幸蔵礼ニ来る。ひらめ一ツ、かに二ツ持参。直ニ帰る。岩橋へかに二ツ、ぶしゆかんノ葉・杏六本もたせ、袴ちやうらんかへしに権七ヲ遣ス
○此節何方も水損、其内加茂ハ大あれノよし也。

(ママ)

山際ノ家山備れつふれ込廿人程ミへざるよし其辺か外か知らねと大水軒迄つき老人子供つしへ上りたすけくれよといへ共きこゑさるか石ヲほるゆへ、所ノ人其石ヲひろひミたれハ右の様子書付有ゆへ、舟ニ而たすけやりしよし。てひら・うちはら辺腰切つかり、ひきやくも五日ととこほりし由万吉ニ聞

○井口喜八より頼しの由ニ而小紺二枚へ書と画と書くれよと野際柴真より申こす。廿八日也。主人暑見廻ニ諸所へ行

○夏目藤四郎礼ニくる。同しく酒出ス。志賀の男子死去ノよし。ゑきりノよし。今晚病死との事。結構ノ悦ニ肴送りとして台所大こんざつノよし也。

十六日。学校当番。小梅お重と灸すへ合。森やおかや来る。喜多村伴右衛門も来る。私妻近日引取候との事。親ハ竹谷安右衛門八石ノよし。先客分ノつもりノよし也。早朝同人娘よし野来り焼鯛二ツ持参。形ひらへもやうかきくれよとの事。則書て権

七ニもたセやる。茶ノ本色ノ粉色ニ而書。藤四

郎ニ酒出ス。夜月よし。岩一郎すいでんよむ。

○廿三日。主人方々江行。仁井田結構。しかし病気ゆ

へ、客ノはし。其事ヲ岩橋鉄之助申来ル。夕方々

母君と小梅権七ヲつれて三宅氏へ行。田宮ノ隠居

もとまり居る也。酒出さる。何もなし。るすハ岩

一郎。

○廿三日。昼後佐氏うつしニ富永来ル。一人ゆへ酒出

しかける処へ、又省太郎来る。同じく酒。夕方過

迄写し、跡ニ而そうめん杯出ス。荻野源三郎妻女

送葬也。権七斗ちやうちん出ス。白井々茶のこ送

りこす。

(ここから紙片かわる……注)

七月五日入用酒二斗、大工町ニ而取。二升池田、同上

辻、同直川やぶ。杓斗残。万吉来り手伝ふ。富之

助も昼前々すしつけ杯して、夜ハかかんかた。池田

忠左衛門もかかんかた。誠ニ暑し。市川・野口杯客

なからてつだふ。仕出し屋魚久ニ而傭人分三匁

膳、下ハ二匁五分。客上廿六人、合五十一人也。

(以下紙片かわりて、また七月廿日以降の記事とみ

られるもの記載……注)

○廿日。夜前より少し涼し。今日当番ニ而、湊御殿江

出ル。権七供。同人先へ帰る。主人方々江礼ニ廻

る。七ツ比帰る。夜肴求ニ行。宿ニ而一盃呑

□□□若イ者受取ノ事ニ付来る。母君寺参り。岳

行院ノはか。

○廿一日。早朝、岩橋角助俸へおしへくれよと申来

る。昨朝も来る。キ志九蔵も申越。岩橋藤助殿

来る。酒出ス。造り肴上九ニ而取。田畑権道入門。

○廿二日。暑し。岩橋兄弟入門。酒券三持参。山本藤

右衛門悦ニ来る。酒出ス。其内画受取ニ来る。ま

たセ置てかく。夜前笹屋へ画帖取ニ行。則ちちて

有之ゆへ持帰る。又昼後浅之助来る。酒取ニやり

て出ス。夕方々主人と岩と花火見ニ行。正住寺へ

行候処渡辺ノ御隠居来てゐるゆへ断。又善助方へ

行。おおミヤと云て人ノ処かり置候間御出候へと

て虎つれ岩橋大助ハ元よりさそひて行。帰りニ酒出し藤助ヲもよひて友ニ酒呑。岩一郎酔てかやノ内ニねているゆへ残し置主人斗帰る。安兵へと熊はたらきニくる。早朝カンキ丁梅本ノ文箱持参して勘定してくれよとの事ゆへ此方ノ返事するとかへす。野呂清吉一寸くる。廻状来る。御目附衆。

○廿三日。式部大輔様御卒去ニ付御停止。普請ハ今日一日、鳴物ハ七日ノ間也。右ハ左京様ノ親御御老年ノよし也。廿三日也。夜中権七ニもたせ志賀迄遣ス。宿ニ而藤四郎・千太郎をよび一ツ呑。お寿(ムシ)□□(カ)や長兵へ百ヶ日ノたいやへ参る。夕方万吉来る。民米つく。さうししき也。肴ととのへる。百廿文ノよし。すし梅本ノ貫ふ。森やおかや貫ひノ由。

●廿四日。昼後藤助来る。少しく雨降。安兵へと熊来り候へ共昼前雨ゆへ帰る。酒を岩はしへ出ス。魚久江肴申付候処当人来る。岩橋ニ逢度よしゆへ造りきたれと言。今度ハ前髪持参ゆへ又権七ヲよび

ニやる。久家ノ丁ノ酒ヤヲもよびニやる。兩人共来り同座酒呑。浅之助来る。少々ふ快ノよしニ而先へ帰る。おそく善之助来□□□□(ム)桶持参する。今日ハ家計ノ事を岩橋へ相頼候ゆへ梶取へ行管之処酒ニえひ候間ふ行。藤助ハ又高橋へ寄候よし也。夕方万吉来る。権七つれて帰る。此夜大ニ雨降。少々雷鳴也。大ニうるあふ。

廿五日。くもる。未天氣ともミへす。熊と安兵へ来る。今日ハ左氏ノ会。仁井田忌明礼ニ使くる。

○廿五日。佐氏ノ会ニ而富永と山本来る。外ノ人ハふ来。其前野口玄長来る。直ニ帰。幸藏かつを壺本持参。万吉来り昼ね。安兵へと熊はたらく。雪隠ノゆがミ直し。夜跡ニ而藤四郎来る。表具師安兵へ方々先日ノ画帖取ニくる。明日迄と約束す。

○廿六日。安兵へ半工来る。古瓦求、二匁五分。民へ五枚遣ス。当月五日客ニ付ヤとひ夫から今日迄ニ而都合十二匁遣ス○酒井省安来る。盆前ニ送りし薬代かへしニ来る。祝義ハ持帰る。酒出ス。魚久

へすき壱本と鉢肴取ニやる。お金此度ノ難義ニ付庄兵へと別レ奉公するニ付黒江ニ帰りそうだんしてくると来るゆへ札二枚遣ス。何かうるさき事共ゆへ井口ノ画書かけたれともふ得書。おりすも来る。

○廿七日。まぜ吹雨一つぶ落る。覚円寺酒券一枚くれる。此度ノ祝ひ米老斗求、代九拾五匁老前渡し、六匁四分残る。扱井口ノ書画書て白雪方迄権七ニもたせ遣ス。岩橋へも下駄かへす。夜喜多村ノ妻女始而来るゆへすし取口ニ而酒出ス。しばらくして直ニ帰。マンチウ二包土産、子供兩人、下女つれ来る。少まくもる。雨もよふ。しかしふ降。

○廿八日。朝正住寺悦ニ来る。茶菓ヲ出ス。酒ヲも出さんとせしニ直ニ帰。

○廿九日。主人学校当番。後々方々江礼ニ行。森やおかや来り今晚とまらせてくれと言、則とまる。夜少く雨。雷鳴ノよしふ知。

●晦日。七ツ前大雨。雷鳴。此時丸山ノ弟子桃井主膳

本よみニ来てゐてしはらく休。酒出ス。其前丸山ノ鯛一・きす二送らる。覚円寺先日ノ懸物くれと言、則二ふくかへす。昼からわくこしらへ緋張。かけとり共来る。坂右へ廿一匁二分私、米喜ニ而追渡りノ壱石代とてくる。内左ノ通。

海士渡り追渡り

米壱石 三斗式升 うけ

正ミ

六斗八升 代

八拾目がへ

五拾四匁四分

右之通 米や

申七月晦日 与右衛門

●八朔。登城。伊藤へさそひニ寄。此内雨降出スゆへ

下駄取ニ権七まいる。合羽きて又ゆく。昼前帰る。赤まま送る。きのふ丸山ヲ送られし鯛やきたるを肴ニして梅本ノ家内、森やおかやと皆々酒呑。其内村井定二郎ヲ肴送らる。夫ヲ岩橋へ送

る。主人方々江礼ニとて行。夕暮過又大雨。九ツ過帰る。方々江行んと出かけし処、山本督字をよひニよこせられし使ニ道ニあひ候ゆへ夕方々同所へ行。酒吞。伊藤泰蔵同座ノよし也。

○二日。朝ノ内くもる。昼ノあいづ有。二階々二三本ヲミる。安兵へ来。工料八匁四分遣ス。米出ル。夕方岩一郎つく。小梅緋ヲ張、明日書。四匁五分利あげ権七行。信江来。夜花火にかいニ而見る。

○三日。昼前雨降。信江昼頃帰るよしニ付すし酒出ス。すし少々持帰る。山本省太郎との八ツ比来る。右用事ハ六日かうしやく相止へくと存候へとも先心得いよとの事。五日ニハ舟行との事ニ付、左氏ノ会ゆへふ行と言候へハ、左候ハハ親もふ行と言ゆへ先行筈。志賀ノ実父病死ノよし也。二三日以前富永幸之丞方々看送らる。いさき三。丸山弟子了元入門。酒券ニ持参ス。小梅ハ小督ノ画書かけ。

○四日。大ニ涼氣相催ス。朝ハ一重ニ而すすし過る程

也。二百十日也。大ニおたやか也。

○五日。六ツより起出で主人と岩舟行。同伴ハ督字省太郎・藤助・善之助・大助等也。菜ハ岩橋をあつらへ出せしよし。めい々菓子くだ物求、出ス。

善之助をハマンチウ出せしよし也。大ニ盛興。昼前々佐々木浦右衛門弟子中。昼相図はしまる。御好他伝なしと言も有。昼六十一本、夜七十七本也。白井大二郎跡目甘石ニ被仰付、父吉二郎永々相勤候ニ付御役かへをも被仰付筈候付かくのことく替つくし候也。三人扶持其儘也。赤城惣太郎跡目友次郎へ被仰付四人扶持也。山中ノ三人扶持ニ而も難有覚へ候ニ存外ノ仕合也。何卒明晩御ミキ上度候間あつく御こまりニ可有之候へ共御出被下よとの事。岸孫三郎名代礼ニ来る○扱此夜花火見残して皆々白井へ行、九ツ比帰る。此日兩人留主ゆへ存(舟也)頼れたる画、母君御前をもかんかへんとせしニ安兵へ・熊はたらきに来り、野口ニ而土甘荷余求、方々へん込たる所へつく、代ニ匁也。

大ニさわかし。花火見ニ池田ノ内室来る。甚たま
 バゆくてミへす。晩程来らんとて皆迄ふ見帰る。

夕方おかや来り言ニハ甚た申兼候へ共私を今晚四
 ツ頃迄かくしてくれよと言。夫ハ何ゆへと言ニ、
 内ノ者私をころし申候と言。是ハ間ちかひ也。此
 間中毎く梅本へ来り、しかしかへらす○はセ六
 七十斗つれ来り、夫ヲやく。今日ノ会止。栗山ニ
 而荀子一さつかりてくる。

○六日。大ニあつし。七ツ過る主人出かける。美濃状
 つく。此度ノ悦ひ也。

○七日。天しや日也。荀子ノ会始ゆへ各々来る、八ツ
 過也。松江ノ僧名ふ知。又丸山ノ弟子鈴木貞助是
 も始。左内・敬之進・良之助・龍洞・主膳・了元
 ・千太郎等也。跡ニ而酒一ツ出ス。すし拵へる。
 跡ニ而梅本ノ家内来る。権七留主ゆへ、昼程母君
 松枝つれて久家ノ丁酒やへ行。則一升持参ス。酒
 二升持参。鈴木と云人也。山本を佳けちん取ニく
 る。

●八日。夜前も降。学校当番也。留主中ノ九右衛門と

の来る。帰らんと言しヲ色々とめてゐる内主人か
 へる。酒取ニやり出す。切手。其内浅之助来る。す
 し取口持参。小梅ハねてゐる。朝起出て少し茶つ
 けたべて、昼まふ食。主人又遠藤へとて出かけ
 る。朝ハ少しノ雨也しに大降ニ成シゆへ権七ニか
 さかひニやる。九右衛門との出ス。此夜大風雨。

●九日。四ツ前を藤助との来る。酒取ニやり、れん根
 沓本取候のミ也。はゼニ而一ツ出ス。藤助当番也
 とて九ツうつと直ニ帰る。合羽しけかさ。水沓丈
 五尺出候とて主人岩之所行。風斗ニ而雨ふ降。水
 二丈出ル。夕方を門口迄水来るとて人々さへくゆ
 へ見ニ行ゐる内、段々水勢つよく此丁中皆川ニ
 成、裏鈴木ノ辺を又池田を水ノ流レくる音誠ニす
 さましく、梅本ノ戸口迄水来る。六十年來ノ水
 也。つつミ切候哉、鐘ノ音かまひすしくはねこ
 す。水音雷の如くきこゆ。近辺ニも皆高ちやうち
 ん出し、所々水見廻等来る。しかし、先達而る

おひく手入して土高く置候ゆへ、立まへノ四方二間通り又門内ハ下駄、裏口杯ハ草子ニ而ある。誠ニ此段ハ安心也。先年子ノとしノ水ニハ床ノ上へ沓尺二寸も上り井戸もふ浄も一所ニ成、しはらく二階ニ住、庭鳥ヲかひ置しか植木ニ而朝ハうたひしヲ子心ニ覚へるれり。小梅十一斗ノ事也。門前ハ舟行来し、土ベノくずる音、人ノなぐ声きこゑしが、夫ニこりて三尺通り土をつきしめて沓尺五寸ニつきたて、床ハ高過る程ニやういしたれど、其後たへて水つく事なかりしゆへ、毎くくいて、皆々打寄て言ニハこりてあまり高くし過しゆへ風ノ当りハつよく、上り下りニハゆまき杯やふれる。扱々入らぬ事成といひしか、此度ハまつ其甲斐有と覚へたり。しかし、直ニ引口付て水げんじたり。

一位様御内しやう様御殿御開キノよし也。杉ノ馬場ニ而も岡田ノ辺ハ乳切又北野ノ辺ハ腰切ノよし、屏風丁ハ床へあがりしよし、なべや町六丁

目、七丁目ノ辺ハ腰切ノよし也。上ノ観音ノ辺ハ乳切、寺町遠藤・伊藤ノ辺ハ床ノ下へも水きたるよし也。此節すそふ有。其小屋余程先々月あたりより立て、段々つかへ有し様子此節初りて四日目成ニ又候水ニ入候ゆへ舟ニ而板杯取ニ行しか、中々叶ひかたく命からく／＼にけてかへりしよし、三ツニ成て流し候よし也。此跡ハ林泉寺とやらにて興行するとの事。扱、野呂清吉見廻ニ来るゆへ何もなしニ而酒出ス。四ツまへ帰る。空ハよく晴て月色よし。市川来り今晚うたひさらへニ来るへく約束。夕方変ズ。

○十日。快晴。四ツまへ藤助殿見廻ニとて来らる。何もなしニ而酒出し居る内、栗山よし助も来る。同座昼めし出しゐる内、よし原林敬二郎悦ニ来る。酒券二持参。一寸酒出ス。夫より柳窓君とつれ立て主人行。がんぎ丁梅本ヲ酒一樽くれる。水見廻。夕方、岩一郎万二郎つれてつりニ行一ツもふ得。母君金ひら参り。

○十一日。朝六ツ過雷鳴大雨。五ツ前々快晴。肴市ニ
而かひ干物ニする。夕方善之助見廻ニ来せんべい
持参、酒出ス。九ツ比帰る。月おぼろくとして
よし。今福山本へ岩一郎行、会。

●十二日。四ツ比る学校江出ル。十六日釈奠ゆへ下げ
はこ下た耆足求。代百七十文。其内又ははれ候ゆへ
草リニ而行。又大ニ降出候ゆへ権七下駄持参。会
ニ而人々来る。しかし向川兩僧へふ来。大ニ風吹
出ス。忠左衛門米つきにくる。せんへい送る。き
のふ同家よりすし二べた持参。其うつりへ入遣
ス。昨日有本を使来る。右十三日別荘ニ而小集致
候間来てくれよとの事。

○十三日。風ハやミはるる。主人学校江五半時比より
出ル。四ツ比帰る。此比は段々水つく。野呂清吉
郎見廻ニくる。其節ぶしゆかん水ニつかるとて土
ヲおく。清吉郎てつたふ。其内中く人力及ハぬ
やうニ表裏より水つき次第くニます。八ツ過ニ
ハ井戸かはや一所ニ成、床へ五寸程ニ而つく。其

儘ニ而夜四ツまへ迄同様ニ而四ツ過ニハ一寸位
引。九ツまへニハ一寸五分へる。其時休む。一い
きねし所案内有之ゆへ出候処御用部屋を便。明日
五半時市川斎へ申渡儀有之候間拙者共役所へ差出
候様ニとの手付ゆへ同所へ又岩一郎持参。帰りて
茶わかしたべ居る内八ツなる。此時内庭又ハ西ノ
庭南ノ庭ノ水皆引、下駄ニ而通行出ける。市川が
其前酒樽見廻ニ申こす。中やしき辺、あろち辺
杯、大水ノよし。カンキ丁床へ上り、芝居ノ丁杯
大かた軒迄つく。此町内ニ而も鈴木八十郎方ハ乳
切ゆへ吉田庄大夫家内をおちや屋へにがしたりと
て庄大夫見廻ニ来。

○十四日。はるる。水皆引。やふ又ハ垣ノきハニハ残
る。是ハ自然をまつ也。五ツ過る学校江出ル。七
家を頼れたるけんび銀姓名持参○村井○遠藤○伊
藤○前田○今日ハ策問御試動たる人々御ほうひ頂
戴相濟ト皆礼ニ来。昼飯ノ時富永、栗山、市川、
札川一時ニ来る。しはらくして岩崎、塚山、山

本、くり本、榎本等来る。八ッ過比田中の人よこす。音と云者来る。何成共手つたハんと言れとも先よしとて酒出ス。いはし造りて一盃呑。其者帰ると跡へ善之助礼ニ来る。酒出ス。其時内川八助来る。上らせ酒出ス。其節蔵主も来る。庭より帰る。又田中がすし三桶見廻ニよこさる。夫ニ而酒出せし也。此度ハほしやと云所と八幡辺ノツツミ切たるゆへ俄ニ水勢つのりし也。大川ハ水げんじたりと云ニ中々引口ミヘス。新町辺殊ニつよし。新通三丁目田善とやらんニ外へ見廻ニやるとめしヲたきかけかにあハの時、大ニ水出て其鍋も皆つかりしよし也。カンキ丁も床へ上りし様子。堺丁ハつかず。寺町ハ勿論、かや町丸山も床へ上り、城ノ口も裏迄水来りしよし。此丁ニ而もよし田庄太夫方家内ノ者皆にがし候。五丁目お茶やへ参候。水ハかたつけ居候へ共疊ハ少々ぬらし候。中々衣服所てハなしとてはらかけ一ツニ而見廻ニくる。一所ハ舟行かよふ。今日鈴木芳右衛

門方へ見廻ニ行しにきのふハ床ノ上へよほとあかり中々セも立かたく屋根をつたひたすけ舟ニ乗て、残る家内ハ一夜屋根ノ上ニ而あかしたりと言。今日さへ水こし切のよし。喜多村へ行候処同様さてくめつらしき大水なり。大地寺こへ来りぬる者おひたし。ゑた村ノ者共此所ニ休ミ候よし也。常氣遣ひなき所も皆此度ハつく。さてくおそろしき事共也。

●十五日。くもる。井戸水くむ。雑谷(袋)わかす。こちら

本求。代武奴。仁井田跡目七ッ比る主人行。田中忠吉郎二升樽持参。此度ノ悦。省太郎も見廻ニ来。木村敬二郎もミ廻ニ来。母君さぎの森へ参る。松下へよる。少々又雨降。此間中とかく降天氣也。忠兵へと長七ミ廻ニ来る。長七ニ酒のみす。野呂清吉郎も礼ニ来る。昨日百疋頂戴ノよし。富永・佐津川・栗山・市川皆同様。浅之助・藤助・塚山父子ハ金五百疋ノよし也。善之助ハおほめ斗也。栗山・田中藤太郎も昨日礼ニ来る。寺町

伊藤ハ長持二さはニ新しきふとん入有しヲも又畳も大分ぬらしけるよし也。山本省太郎ミ廻ニ来らんとせしニ中々ふかく、家来ハ背高キ者ゆへ大を着物夫もたせ、自身ハおよき来りしよし也。扱々おそろしき水なり。月ふ見。

○十六日。くもる。七ツ過ル起出て六ツ過学校江出ル。釈奠興行也。殿様御参詣。岩一郎拜ニ五ツ比行候処もはや御入有之けるよし。三伯ミ廻ニ来る。遠藤一郎ハ水ミ廻とて二升樽よこす。又是ヲ仁井田源一郎家とくノ悦ニ遣。右家とく相違なく貳百石也。御銀其儘。夜野呂清吉郎自分ノ袴置有之しヲ取ニ来ル。酒出し候処此間中酒ニ当りしとてあまりふ呑ゆへ、酒一升すし少しもたせ帰らす。油つきて大ニ心配。らうそく立る。昼岩橋左内すし一鉢と太布あせ取老ツ持参ス。水ミ廻ノすし也。

●十七日。六ツより起出る処大雨雷鳴。しかし今日ハ湊御殿当直ゆへこしらへする。五ツ後ル出ル。合

羽ヲ城ノ口へ取ニやり、わらじ求ニやり杯する内少し雨もやミ全雷鳴やむ。大ニ悦ひ合羽ニふ及。しかし供権七ハ合羽ニ而出ル。昼頃権七婦り主人ハ田中九右衛門方へ寄しよし也。おひく水ノ咄しヲ聞ニ誠ニおそろしく哀なる事共也。九日ノ出水ニ馬つきのこちらノつつミ切有しニ又候十三日ノ大水其切口ハ大ニ水入候ゆへ大田辺、岩橋、田中新町、はた屋敷辺ハ殊ニ水勢つよかれし也。此節和佐山なるとて一昨夜杯本町向寺町杯ハねすノよし也。山吹われると言はやしけるよし。此事幸ニとうぞく来り、はやにげよ山われ水一時ニ出ると言ゆへ人々おそれ何もかも打すてにけたる跡ニ而物をうバひし者もあり。色々様々難義する者かぞへかたし。何とか言村にも人四十人程ミへず。蔵迄も材木ニ打あてられ流れしよし。其蔵ニハ何そ大切成宝物入置しよしニ而水ノ最中ひきやく来るよしも噂有。長持ヲひろひミしに八ツト二ツ斗ノ児入有之、又たんすひろひし者ハ中ニハ五

十枚ツ、ノ札八くくり外ニ何か入有兩方共上へと
 どけしよし也。うら橋、中やしきの橋、こまや
 橋、おいセはしすへて橋五ツ流れ、都合八ツたへ
 しノよし也。諸方ノかへ皆こけ急ニ人やとわんも
 人なしとの事。此丁内ノ遠藤ハ今ニ水ふ引、疊一
 ツ敷たる所へ家内集りるよし。大方皆かやうな
 り。屋ねにて一夜あかせし人酒ニハゑひくたひれ
 ハする思はずこけ落水中へは入しと云人も有。小
 出大ゆふ杯疊上るヲ水へ其儘ぬらしたるよし也。
 寺町林と云い師ノ家ハ裏橋ノはた也。大成材木は
 しへ横たわり水か夫へあたる度ニはねて林ノ座敷
 ゑん柱つかまへてゐる者も水ノ瀬はやくあやうけ
 れハ命ありての事也。にげよとて皆々にげたと
 の事。ゑた村へも水つきあしよハ等ハ皆大地寺ノ
 山へツれ行、丈ぶ成者斗家ニ残り諸道具ハ大かた
 流したるよし也。いつれヲ聞てもおそろしき事ニ
 而此方杯ハ上ミノ歩也。たた難義と云ハ井ノ水斗
 也。今日ニ至る迄ももらひ水也。新在家つつミ二

百間も切候よし。ここハ久野丹波守殿ノ知る所
 也。四部六部のよし。丸地ノよし。大ニあれる。
 其外諸ノあれしゆへ米ハいか程上るかも知れ
 ず。黒田甚兵衛ノ母一兩日前病死、今晚送葬也。
 権七ヲつれて権七供ニ行。此時ハ雨ふ降○今日ハ
 御聴聞なし。かう釈濟から田中九右衛門江寄昼飯
 ニよばれ岩橋へ行。志賀、山本彦十郎殿へも行夕
 方帰る。今日
 御ゆずりノ御道具御拜見被遊候ニ付御城へならせ
 らるるニ付湊御殿御聴ぶく御改也。

●十八日。先今日ハよき天気也。昼後主人白井・赤城
 両家へ酒券二葉ツツ持参跡目ノ悦。其外水見廻ノ
 返礼。又見廻ニ行七ツ比帰る。又雨降。遠く雷鳴
 也。寺田秀三郎ミ廻来り申ニハ此間ノ水私かたハ
 床すり切、六丁目ハ又三尺ひきしよし也。横まち
 長谷川ハ床々上六尺ノよし。座敷ノ屋根ハ前夜ノ
 風ニ吹まくられ物置所もなく大ニこまりけるよ
 し。舟もかひととかするにてかよひけるよし也。

さいかや伊太助と申丁人此度死人ノ取置願ひ出候
而きのふ迄二十七人ほうむり遣し候よし也。尤尋
ねても宿なき者共斗也。又三嶋ノ咄しニどこか知
らねとあミを入しニ、至ておもく引上んとせしニ
死人五人迄かかりさうくやめしよし也。一時に
か又ハ幾度ニか知らず。諸人が引しか委しくハ知
らす。母君少々腹痛。大ニひややか也。朝ノ内じ
ゆばん着用。

○十九日。珍しく快晴。昼後主人方く江あいさつ又
ハ見廻ニ行。今日榎本へ行筈、先方断ニくる。
野上酒井省安見廻ニ人よこす。酒式升よこす。
七ツ比当人来る。酒すしニ而一ツ遣ス。夕方帰。
かうしん詣。主人ハ方く江行、榎本ニ而ちやう
ちんかりて帰る。

○廿日。大ニ快晴。主人又方く江あいさつニ行。嘉
兵へノ母七ツ比来る。嘉兵へ事当四月をわづらひ
難波ノよし。お桶方迄来るゆへ寄しよし云。ざく
ろ三遣ス。かんざし見せニ来。

○廿一日。快晴ニハあらねど先よろし。今日ハ山本省
太郎殿と約束ニ而昼後つりニ行。岩一郎も同道。
あはちノ柴屋来る。拾奴ノ持参百八十八五荷也。
留主中赤城屋二郎着酒持参。当年七才、上へハ八

才。扇子画急ニ書て遣ス。仁井田源一郎よりも着
一籠送らる。大鯛一・中鯛弐、都合三頭見事也。
昼前魚九来。肴一ツ取かつを老本、代。

今日ハ養録寺御霊前へ大納言様御参詣。昨日ハお
城ニ而御具足御拜見ノよし也。夕方省太郎殿も一
所ニ帰る。夫々酒出しめし出し四ツ前帰らる。は
ぜ皆くつれたる三十斗省太郎殿持帰らる。いろ
くじたいしたるヲ又色く云て送る也。夫々昼
ノ肴料理する。

●廿二日。又定らぬ天気ニ而日当り又降する。柴へ払
代物ノ為ニ、岩一郎米与又ハ伊藤へ水ミ廻ノ為ニ
黒鯛弐尾あミ袋へ入持参。両方共主人ハ留主也。
大坂当月初地しん雷火事大水。

熊野ニも大あれ、家四十軒、船四十艘流ス。水五

丈斗つきしよし也。勢弱も大水ニ而小笠原婦ノ節馬あづけ来るよし。京都もあれ清水ノ音羽ノ滝一所ニくずれさんくぼるよし也。野上ノ方ノ山もひひわれしよし也。

淀川洪水之事

一京都川端通不残床ノ上へ水上リ、桂川筋二ヶ所切ル、水高サ壹丈八尺○淀より伏見迄式ヶ所切ル○木津川堤二ヶ所切ル、水高サ壹丈九尺○鳥羽海^(マ)道愛宕与申所百廿間余切ル○枚方、淀、鳥羽、伏見辺床ノ上へ水上カル。往来ハ小舟ニテ渡し候へ共平人ハふ叶堤方役人斗り。淀水高サ式丈四尺、加茂水高サ壹丈八尺、宇治川水高サ壹丈九尺、枚方辺水高サ壹丈六尺、神崎別府堤百間余り切ル。

メ八月十六日

右之通飛脚屋ヲ申来ル。

右松下ニ而借ル。

○廿三日。今日ハふ降。日当る。夜ハ大ニ快晴ス。左氏写しニとて昼後、省太郎殿、同時、野呂、余程

跡ヲ富永来る。其内幸野^(マ)左近来る。来月京都ニ会
有ゆへ行ニ付何ヲ書くれよとの事。有合ニ而酒出
ス。にきのすしに肴杯ニ而七ツ過帰る。五ツ比呂
皆々へ酒出ス。四ツ比帰らる。岸孫三郎御書物ノ
事申来る。庭より帰る。藤四郎跡ニ而一ツ出ス。
ひるけい次ノおば来る。

○廿四日。昼後、主人榎本へ行。小梅小屏風張ゆづり
扇子取来。

○廿五日。快晴ス。左氏ノ会ニ而富永・山本・田中・
栗山来ル。夕方帰らる。善之助跡へ残り酒一ツ出
ス。三谷忠二郎病死知らセ今朝よコス。今晚送式^(マ)
ゆへ岩一郎権七つれて見立ニ行。門へ出スちやう
ちん権こしらへる代三奴。又油代三十文渡ス。水
つき跡見分役人来る。長屋へ敷たる豊弘ハんとミ
セ候処大ニ雨もりて役ニ立ず日ニほす。田中ヨス
し桶取ニ飛きやくよコス。

○廿六日。朝ばらくゆへ案し候処殊之外快晴。今日
湊御殿かうしやく。権七つれる。留主中吉田村法

輪寺内僧真谷始而来る。本をしへてくれよとの事。酒券二持参。諸けいこ場御覽被仰出、竹森廻状来ル。中野へ廻ス。昼頃帰りて又つり二行。野呂清吉ヲさそひ、岩一郎つれ行。酒一升取式匁。すし取口取寄持参。留主中幸野左近ヲ手帯并酒券二此度ノ悦ひニよこす。当人ハ廿五日ニ帰るよし。

○廿七日。朝ノ内ばらく時雨ノやうニ終日ふる。安兵へと熊来る。土かふ。かべノそへし。井戸端直し。昼前々主人学校当直ゆへ行。にきりいい持参ス。跡へ藤助殿来。其時雨降。其比池田ノいと引つけノよし聞ゆへ母君先行ミ廻。八ツまへ上田忠左衛門来る。四日カかんしつヲわつらひ無沙たノよし申。きのふ初て磯へ行つり来申よしニ而あい式持参ス。酒出ス。安兵へすし取ニ行、熊ハ酒取ニ行。其内主人帰る。五色そうめんゆでてもてなす。詩仙画かへす。浅之助来る。カンキ丁へ返しくれよとの事。久野丹波守殿十二月ノ富士ノ扇面

へ詩書候様春ノ比頼まれ有しヲ敵ニくわし候ニ付又其通りノ画ヲ弥助へ頼事ヲ又浅之助へ頼ム。扇も道ニ而かひくれよとて札一枚渡ス。ざくろ式部送る。直ニ帰る。一日三十め御かし方ニ而かるニ付加判伊藤と松下也。両方へ頼ミ早速出しくれる。○荀子ノ会ニ而僧二人、丸山弟子二人・良之助・左内・千太郎・茂市等来る。相済とめしたへて池田へ主人ミ廻ニ行。少しひらけ気味のよし。両三度も引つけゑき利のよし也。しけ楠ハ此間中しつ利ノよしニ而ねてゐる。夕方母者さきの森へ参る時松下へ寄加判頼ミ早速出来。

○廿八日。主人昼前岩橋へ行候処、老人言候ニハ大変起り候として、藤助ヲ御咄しニ可参候と言ニ付直ニ帰る。昼後藤助来る。色々御馳走持参ス。酒取て出ス。跡ニ而藤四郎も来る。少くもめ合。先田中々仲人良平ヲよこせし事ニ付心配ノよしいはる。七ツ比帰らる。

●廿八日ニハ舟行也。跡先ニ成上辻藤助とのにと行。

岩一郎少々舟ニゑひ候よし也。信江水見廻ニ来る。すし一重持参ス。夜右すし池田へ送る。昼小梅池田へミ廻ニ行。いと引つけ今日ハ少々よし。ゑき痢ノよし也。朝ノ内降。今晚信江とまる。

○晦日。快晴もめんや来る。主人岩橋へ行。又藤助殿当直後寄。軽く馳走。魚久々取寄。此方々ハ酒出セシのミ。太刀魚いも杯ニ而出ス。桂ヲ田中々かへすと良平申来候事ニ付而心配何卒行てくれよとの事也。昼まま信江とのヲよぶ。